

発行：2009年9月30日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

平成21年7月21日 山口・防府地区豪雨災害発生

山口県曹洞宗青年会・シャンティ山口も災害支援体制に入り情報提供と救援活動を開始しました。
大野泰生青年会長が対策本部長として対応しました。

- 1、現地に入ってから活動は7月27日～31日まで行います。
- 2、活動支援金並びに義捐金を集めます。
- 3、ボランティアの呼びかけを行います。
- 4、ボランティアセンターの要請に応じます。

期間中連日10～15名のボランティアが活動しました。

活動報告例：

要請により、朝9時に小野小学校近辺に集合して現地へ赴き、シャンティ山口の方々と合流して合計13名が復旧作業にあたりました。現地（和田原地区??）は土砂で家がほぼ埋まっているところもあったりと小野地区よりひどい状況であるように感じました。

作業の家も床上に土砂が流れ込み、畳などが使い物にならないほどやられていました。

まず荷物を段ボールに詰めて部屋から出し、畳と畳の下地板をはがして床下に流れた土砂をすくいだしたり玄関前の土砂、車庫の土砂などをはき出しました。午後4時には一区切りをつけ解散しましたが、まだまだ復旧には時間がかかりそうです。話によれば明日から重機が入るそうです。

重機の作業効率を考えると明日以降は数人くらいの手でいいのでは？とのことでした。

活動報告例：

今日は小野地区に加え、右田地区でも作業が行われました。重機を使った作業がずいぶん進んでおり、ボランティアが入れる状況が整ったためでしょう。我々が携わったのは、小野地区民家の床下の泥撤去と、右田地区の民家の入り口に堆積した土砂の撤去。

活動情報例：

一昨日、防府ボラセンに行き、様子を支援プロジェクトの方にうかがってきました。防府ボラセンは23日には閉所する方向で動いています。以後の活動は防府社協に引き継ぐそうです。

避難所は1・2カ所残るのみで、避難をされている方も数えるほどということでした。

市営住宅・県営住宅などが開放されそちらへ移動されているそうです。



床上以上に土砂被害を被った民家



重機による取り除きが始まった



大木と土砂が押し流した

被災者の方々心からお見舞い申し上げます。早期復興を願っています。ボランティア・関係者のみなさんのお疲れ様です。

御協力御支援感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2009.8.21saeki

2009年度 ベトナム・スタディツアー 報告書



— NGOネットワーク山口主催の勉強会・研修—
NGOとODA：国際協力の現場を訪問して

NGOネットワーク山口・スタディツアー 日程表

2009年9月8日(火) ~ 9月13日(日)			
8日(火)	福山 新山口 福岡	07:18 07:32 08:20	藤屋、岩本 小林、岩野、長田、柳瀬、坂井 秋野、波田野(空港にて合流)
	VN961 (ベトナム航空) VN254	11:00 福岡 14:10 ホーチミン 国内線へ乗り換え 17:00 ホーチミン 18:20 フェ	バンコクより佐伯・ジッポン氏合流 ハノイのガイド Mr.Dung 出迎え OGCDC・Dr.Nhan と打ち合わせ/ 21時 Asia Hotel
9日(水)	IMAYA活動現場 訪問/QUANG TRI(クアンチ)省 OGCDC スタッフ同行 午前: ベトナム製特殊車いす 15台寄贈式 とホームビジット DMZ(非武装地帯)/17度線 ベンハイ川 ヒェンロン橋ほか 午後:クアンチ古城にて戦没者への献花、クアンチ市内見学 Asia Hotel		
10日(木)	OGCDC 活動現場訪問 / 阮朝王宮見学 午前: FUTURE SCHOOL, HEART SHOP 阮朝王宮見学 午後: DAC SON PAGODA ,BLIND SCHOOL OGCDC OFFICE にて質疑応答 Asia Hotel		
11日(金)	JICA プロジェクトサイト訪問(08:30-16:30) 午前: 保健省、フエ中央病院(中部地域医療サービス向上プロジェクト) 午後: 「ベトナム中部・自然災害常襲地での暮らしと安全の向上支援」 プロジェクトサイト訪問(京都大学地球環境学/フエ農林大学) (フエ省ボー川流域)		
	VN255	19:10 フェ 20:30 ホーチミン	Riverside Hotel
12日(土)	午前: クチトンネル (郊外 70km・2時間) 午後: 戦証博物館、中央郵便局、統一会堂など 出発まで夕食およびホテルにて休憩		
13日(日)	VN960	01:30 ホーチミン 08:00 福岡	解散 *佐伯・ジッポン氏はハノイ、サバへ

上記日程はフエ OGCDC、ハノイ TTLC 旅行部、ベトナム JICA 事務所、NGO ネットワーク事務局、IMAYA による
OGCDC/ Office of Genetic Counseling & Disabled Children
Fue College of Medicine and Pharmacy, Fue
TTLC/ Tourist, Trade and Labour Export Joinstock Company
Minister of Transport of Vietnam
Vietnam Motors Industry Corporation, Hanoi

1. ベトナム・スタディツアーを担当して

IMAYA 会長

山口県協力隊を育てる会会長 岩本 功

昨年 12 月 20 日の NGO ネットワーク山口の情報交換サロンでの議題が、「ベトナム(IMAYA)へのスタディツアーはどうか?」(IMAYA、協力隊を育てる会の活動現場視察)でした。昨年の第 1 回スタディツアーは「シャンティ山口」が担当された、現地でのホームステイをしながらタイ山岳民族、エコ現場や保育園などを訪問するという、内容のある有意義なツアーであったと報告されていまして、引き受けは大変だと思いました。

今年のスタディツアーがベトナムへと決まる前から、IMAYA (International Medical Aid of Yamaguchi : 国際医療協力山口の会) では今年 2 月にフエで車いす寄贈や歯科検診をする事を既に計画していまして、フエ現地で今回のツアー計画を OGCDC

(Office of Genetic Counseling & Disabled Children) と相談したり、本県出身の JICA 青年海外協力隊員の徳本さん(水上生活者支援)にも事前に会ったりして、ツアープランを考えることが出来ましたことは幸いでした。スタディツアー立案に当たっては、まず日本側の NGO/IMAYA と、ベトナム側の NGO/OGCDC の、それぞれの活動や両者の協力関係を体験できるプランを考えました。次いで飛躍的な発展途上にあるベトナムで



の JICA/ODA が果たしている役割や、NGO 活動と ODA プロジェクトが如何に住み分けられているかなどを学べるような計画も考え、当初は徳本隊員の活動現場視察の予定でしたが、予定より早い活動終了となったために中止となりました。しかし、JICA デスク水野さんのご尽力により、フエ中央病院視察と京都大学が支援し、フエ農林大学がフエ近郊のボー川流域で行うという「草の根パートナー型」プロジェクトサイトの視察が実現できましたことで、スタディツアーは一段と充実したものとなりました。

また、IMAYA 活動と OG CDC 活動の背景にはベトナム戦争で使用された枯葉剤による後遺症などがあり、ベトナム戦争を知らない若い世代の参加者の方々のためにもベトナム戦争の戦跡めぐりや戦争証跡博物館での学習を入れました。このようにして盛り沢山の 5 泊 6 日の旅に仕上がりました。

今回のスタディツアーでは、これまでの自分自身の活動であまり深く見えなかったことが、参加者のそれぞれの視点からの質問やアドバイスからクリアとなった点多々ありました。JICA の ODA プロジェクトにはハード面とソフト面での乖離という批判のあるところですが、ベトナム中部地域医療サービス向上を目指すフエ中央病院での取り組みは、医療に関係するものから見てとても深く検討され、これからの中部ベトナムでの医療向上に貢献するものと思いました。また京都大学とフエ農林大学が組んだ草の根パートナー型のプロジェクトには壮大なものがあり、このプロジェクトは今年 8 月に終了していますが、まだまだ長期的に持続し、地域の安全や生活の質向上になって欲しいものです。

今回のスタディツアーを担当してみまして、事務局の企画されたツアー前の連続講座がとても重要なカギであった事が分かりました。是非とも第 3 回のツアーが計画される事を願っています。

とてもいい勉強をさせて戴きました。事務局をはじめ参加者の皆様にお礼申し上げます。



盲学校にて



フエ医科大学で OG CDC を主宰するニャン博士（左）と IMAYA 奨学生 3 名



参加者のみなさん



「ふるさと」合唱（ハーモニカ 佐伯さん）

9. NGOネットワーク山口スタディツアーに学ぶ

シャンティ山口事務局長・理事
佐伯 昭夫

同 現地スタッフ

ジッポン・セーヤン

ベトナムは初めての入国です。私がNGO活動を始めた根底には、ベトナム終戦直後の逃げ惑うボート・ピープルをテレビで見たことがあります。生き長らえる一つの希望を求めて、今にも沈みそうな小舟に溢れんばかりの難民が乗り、あてもない大海原へと風まかせに（運がよければ、生きることができるかもしれない）、生まれ故郷をあとに、助けを求めてさまよう姿が脳裏に焼き付いています。

私に出来ることはなんだろうと思いつつ、その後三年が経過し、あるきっかけ（国際障害者年の5年計画）に出会いました。私にできることかと思ひ、障害者福祉ボランティアに参加しました。二十年間のお手伝いのなかで、カンボジア、ラオス難民とも縁があり、そして、今があります。

ベトナムにこのような形で来れたことが、大変嬉しく、また考え深いものがあります。

前置きはさておいて、スタディツアー期間中の感想を簡単ですが報告します。みなさんより一足お先に入国しました。入国は大変厳しく、また当局のやる気のない仕事振りを感しました。十七年前のタイと同じで、いかにも袖の下を期待している素振りが伺えました。

みなさんとの合流は午後三時なので、動物・植物園で時間を調整するべく、入園しました。メエメエやぎさんのところで、餌やりのおばちゃんに騙され、100万ドンひったくたれ、とられてしまいました。迂闊でした。ガイドブックに注意書きがたくさん書いてありました！！その後、みなさんと無事合流でき、一安心しました。

I MAYAの活動現地訪問、特殊車いす寄贈式典、ホームビジット。身体に障害があり、自力で歩くことが困難な人たちのための車いすで、おじいちゃん、おばあちゃんが多く見受けられました。車いすのお陰で移動が便利となり、これを機に物売りに出かけられることで現金収入が得られるなど、暮らしも少し楽になる。とりわけ、自分自身で出かけることができ、行動範囲が広がり、また多くの人たちと接することが増えて、これまでにない快適な生活となるだろう。贈呈式では緊張していたが、終わるとみんな笑顔になり、私まで嬉しくなりました。

今までの不自由を取り返し、これを機に元気で明るい日々を過ごしてほしいと願います。